

日付	JIS番号：発効年 規格名称	件名	問合せ内容	回答
2014.6.6	JIS G 3112:2010 鉄筋コンクリート 用棒鋼	JIS G 3112 (鉄筋コ ンクリート用棒鋼) の異形棒鋼(呼び名 D25)の引張試験片に 係る規定の解釈	<p>JIS G 3112の9.2.2 (引張試験)は、「引張試験は次による」に続き、「a) 引張試験は、JIS Z 2201の2号(異形棒鋼の場合は、寸法が呼び名D25未満)又は14A号試験片(異形棒鋼の場合は、寸法が呼び名D25以上)とし、…」と定めている。</p> <p>ところが、JIS Z 2201(金属材料引張試験片)自体は2011年に廃止され、試験片に係る規定はJIS Z 2241に統合された。</p> <p>ここで、JIS G 3112の9.2.2(引張試験)は、「b) 引張試験の方法はJIS Z 2241による。ただし、異形棒鋼の降伏点又は耐力及び引張強さを求める場合の断面積は、表4に示す公称断面積を用いる。」と規定し、G3112の呼び名D25へ適用されるJIS Z 2241の附属書D(規定)のD.2.3.1.2は、「2号試験片は、呼び径(又は対辺距離)が25mm以下の棒材に用いる。」と定めているから、JIS G 3112の9.2.2のa)が引用するJIS Z 2201と、JIS Z 2201廃止後のJIS Z 2241とでは、「2号試験片の適用が、D25未満かD25以下か」に関し、異なる定めになっている。</p> <p>(注記) D25の公称直径は25.4mmであるが、JIS Z 2241の附属書D(規定)のD.2.3.1.2の定めとの比較のため、数値を整数に丸めれば、同じ25mmとなる。</p> <p>上記の規定構造を考慮すると、試験片に係る規定がJIS Z 2241に統合された以降は、JIS G 3112の異形棒鋼(呼び名D25)の引張試験片は、JIS G 3112が引用するJIS Z 2201(廃止済)に基づく「14A号試験片の使用」のほか、現在有効なJIS Z 2241に基づく「2号試験片の使用」も併せて可能であると解釈する。</p> <p>以上の解釈の正否について、お伺いいたします。</p>	<p>その解釈は誤りです。</p> <p>JIS G 3112の9.2.2 a)「引張試験は、JIS Z 2201の2号(異形棒鋼の場合は、寸法が呼び名D25未満)又は14A号試験片(異形棒鋼の場合は、寸法が呼び名D25以上)とし、」の規定において、JIS Z 2201は既に廃止されていますが、JIS Z 2241に統合されたものであり、2号試験片及び14A号試験片の規定内容に変更はありませんので、寸法が呼び名D25未満では2号試験片、寸法が呼び名D25以上では14A号試験片を用いる事に何ら変更はありません。</p> <p>お問い合わせの中で、2号試験片の適用の規定に関して「異なる定めになっている」とありますが、JIS G 3112の9.2.2(引張試験)のa)は「試験片」についてJIS Z 2201を、b)は「試験方法」についてJIS Z 2241を夫々引用したものであり、JIS Z 2201が廃止された事を理由にJIS G 3112 9.2.2 a)の規定を無視してよい、という解釈にはなりません。この規定のとおり、D25以上については14A号試験片を用いて試験する必要があるのは上記のとおりです。</p> <p>なお、JIS G 3112 9.2.2 a)に廃止済のJIS Z 2201が引用されている点については、次の見直しの時期に規格を改正する方向で検討します。</p>